

令和 2 年 6 月 30 日現在

機関番号：27102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K11894

研究課題名(和文) 学士課程におけるプロフェッショナリズム教育の教育資源開発

研究課題名(英文) Development of resources for the professionalism education in the undergraduate program.

研究代表者

木尾 哲朗 (KONOO, Tetsuro)

九州歯科大学・歯学部・教授

研究者番号：10205437

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：医療者教育におけるプロフェッショナリズム教育は世界標準となっている。本邦においても歯学教育モデル・コア・カリキュラムのはじめにプロフェッショナリズム教育が掲げられている。しかしながら、プロフェッショナリズム教育は国や地域の文化や医療形態が異なることにより、その教育方略は日本に適した日本独自の教育資源が必要となる。

今回、この教育資源のうち、物的資源としてワークブックを作成するとともに動画2編を作成した、さらに人的資源として複数回のワークショップを主宰し、歯科医療系学生のプロフェッショナリズムを涵養する教育環境の改善の方略を構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本邦では安心・安全の医療が求められており、その負託に応える優秀な医療人を育成することは医療系の高等教育機関の使命である。しかしながら、一部の医療者や医療系学生によるアンプロフェッショナルなふるまいは、医療者や学生への不信感を招いている。加えて疾病構造の変化や患者の権利意識の変化と情報社会の発達により、良好な医療者-患者関係の構築をはむつかしくなっている。

本研究は、良好な関係を構築するための情意とノンテクニカルスキの向上を目指して、医学教育理論に基づいた教育的・物的・人的資源の開発を行っており、その社会的意義は大きいと考えている。

研究成果の概要(英文)：The professionalism education in the medical and dental college education becomes the global standards. In Japan, the professionalism education is advocated at the beginning of a dental education model core curriculum. However, culture and medical systems are different among countries, it is necessary to make original education methods adapted to Japan.

I made one work-book and two education videos as material resources, and made some opportunities of work-shop for educators as human resources. And I built stratagem of the improvement of the education environment that cultivated professionalism of dental students.

研究分野：歯科医学教育学

キーワード：プロフェッショナリズム教育 情意教育 教育資源の開発 モデル・コア・カリキュラム

## 1. 研究開始当初の背景

歯学教育はもとより、医学・薬学・看護学の教育においても文部科学省の指導の各教育のモデル・コア・カリキュラムが制定されている。これらのうち、歯学・医学・看護学のモデル・コア・カリキュラムでは、項目 A に各医療専門職として求められる基本的な資質・能力が挙げられており、その 1 番目にはプロフェッショナルリズムがあがっている。

一方で海外においても歯科医学教育学会のみならず、医療系教育学会においても重要なコンピテンスとしてプロフェッショナルリズムが掲げられており、プロフェッショナルリズム教育の重要性がグローバルスタンダードとなっていることに裏外の余地は無い。

しかしながら、本邦ではプロフェッショナルリズムの意味ひとつとってみても、医療系教育者の間での共通認識は十分ではなく、前述のモデル・コア・カリキュラムに書かれている内容を見てもプロフェッショナルリズム研究者のコンセンサスがあるものとはいえ、いわゆる狭義の意味合いとして用いられているのが実情であり、その先にある教育の方略や評価の方法についての統一した概念を醸成するには程遠い状況である。

上記の背景に加えて、国や地域、時代、文化や医療形態が異なるとプロフェッショナルリズムは異なるとされていることから、日本に適した医療人養成機関におけるプロフェッショナルリズム教育の物的教育資源の開発とそれらを活用する人的教育資源の養成は急務となっている。

## 2. 研究の目的

安心・安全で信頼される歯科医療を提供できるプロフェッショナルリズム・マインドを持つ医療人を社会に送り出すことは医療系学部への使命である。

本研究の目的は、歯学教育領域のみならず他の医療系領域のプロフェッショナルリズム教育者と連携して、歯科医師のみならず歯科衛生士も包含した、歯科医療人として求められるプロフェッショナルリズムの構成要素を検証し、その構成要素をターゲットとして教育する実際の物的・人的教育資源を開発し、検証することにある。

## 3. 研究の方法

2011 年に全国の歯学部・歯科大学教員によるワークショップにて作成した暫定プログラクツを基に作成された「2013 年版よき歯科医師になるための 20 の質問」を基に物的資源と人的資源の開発研究を行った。物的資源の開発は、学生の倫理・プロフェッショナルリズム教育に資する教材の開発とし、人的資源の開発は作成された物的資源に関する情報提供と教員の医プロフェッショナルリズム教育に関する認識の変容を主体として行ない、あわせて日本の歯学教育においてプロフェッショナルリズム教育が的確に定着できるような工夫を行った。

## 4. 研究成果

### (1) 物的資源の開発成果

はじめに、「2013 年版よき歯科医師になるための 20 の質問」の中に掲載されている事例「認知症患者への新義歯作成」を基に 2017 年 4 月に動画教材「入れ歯はひとつ」を DVD 形式にて作成した。

次に、厚生労働省から地域包括ケアに伴う多職種連携の重要性が唱えられる状況を踏まえて、これまで歯科医師を対象として作られていた教材「2013 年版よき歯科医師になるための 20 の質問 倫理的検討事例」の内容を、歯科医師と歯科衛生士を対象とした内容に改訂し、タイトルも「2018 年版よき歯医療人になるための 20 の質問 倫理的検討事例」として汎用性をもたせて発刊した。

さらに 2020 年 9 月には、「2018 年版よき歯医療人になるための 20 の質問 倫理的検討事例」を基に学生が手元に置いて活用できる教材「よき歯医療人になるための倫理・プロフェッショナルリズム教育 プロフェッションワークブック」を上梓した。

最後に、上記ワークブックの中に掲載されている事例「散乱した抜去歯」を基に 2020 年 4 月に動画教材第 2 弾「落し物はヒトの歯」を作成した。また、本動画の完成時期である 2020 年 4 月はおりしも歯学部学生が COVID-19 による自宅待機と遠隔講義の環境下にあったため、日本歯科医学教育学会に働きかけ、今回作成した「落し物はヒトの歯」と前作「入れ歯はひとつ」2 つの動画教材を、29 大学歯学部にて活用できる環境を構築し、提供した。

### (2) 人的資源の開発成果

人的資源の開発としては、第 36 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会(松本歯科大学)

の開催日程に合わせて、ワークショップ「倫理・プロフェッショナリズム教育実践へのアプローチ」を主催し、「2018年版よき歯科医療人になるための20の質問 倫理的検討事例」の紹介とその活用法についての情報提供および意見交換を行った。

次に 第37日本歯科医学教育学会総会および学術大会（奥羽大学歯学部）にて、シンポジウム「倫理・プロフェッショナリズム教育委員会企画シンポジウム 歯科におけるプロフェッショナリズム教育～その方略と展望～」を開催し、歯科医学教育白書の医療倫理教育に関する調査結果として、教育の実施状況、方法と方略と内容についての報告の後、「倫理教育資源 DVD『入れ歯はひとつ』の活用法」「『2018年度版よき歯科医療人になるための20の質問 倫理的検討事例集』の活用法」「歯科衛生士のプロフェッショナリズム研究から見てきたもの」についての情報提供を行った。

さらに、今秋の第39回日本歯科医学教育学会総会および学術大会（神奈川歯科大学）においてこれまでの研究成果の集大成としてシンポジウムを開催し、「『プロフェッションワークブック』の紹介と活用法」「『落とし物はヒトの歯』の紹介と活用法」「『入れ歯はひとつ』の具体的活用事例」について情報提供を行う予定である。

### （3）研究成果の論文公表

成果の公表としては、「『全国歯科大学・歯学部における「2013年度版よき歯科医師になるための20の質問 倫理的検討事例集」の利用状況」について第35回日本歯科医学教育学会総会および学術大会（大阪大学）にて、アンケート結果を発表し、その後日本歯科医学教育学会雑誌第（32巻2号 2016年）に発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 伊藤香恋, 永松浩, 鬼塚千絵, 板家朗, 木尾哲朗	4. 巻 51
2. 論文標題 研修歯科医が困難を乗り越える心理社会的プロセス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 109-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瓜生和彦, 鬼塚千絵, 板家朗, 永松浩, 木尾哲朗	4. 巻 54
2. 論文標題 「良い歯科医師」とは? 歯学科学学生の臨床実習経験による意識変化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本歯科医療管理学会雑誌	6. 最初と最後の頁 191-198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木尾哲朗	4. 巻 34
2. 論文標題 医学教育・歯学教育モデル・コア・カリキュラムから見えてくること	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日歯教誌	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木尾 哲朗, 平田 創一郎, 角 忠輝, 長谷 由紀子	4. 巻 34
2. 論文標題 歯科におけるプロフェッショナリズム教育～その方略と展望～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日歯教誌	6. 最初と最後の頁 87-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 角野 夢子・鬼塚 千絵・永松 浩・木尾 哲朗	4. 巻 10
2. 論文標題 高齢の患者と良好な関係を築くまでのプロセス	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本総合歯科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 61-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 郡司掛香織、木尾哲朗、黒石加代子、伊藤美沙、森田淳平、志賀百年、川元龍夫	4. 巻 13(1)
2. 論文標題 日本における矯正歯科標榜歯科医療機関数と日本矯正学会認定医から見る異教アクセス	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 九矯歯誌	6. 最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福屋祐子、中村由紀、中村桃子、鬼塚千絵、淵上祐子、山口紫乃、柴崎桂子、松下智美、永松浩、木尾哲朗、秋房住郎、引地尚子、柿木保明、富永和宏、寺下正道	4. 巻 71(4)
2. 論文標題 九州歯科大学歯学部口腔保健学科学生の学修目標の変化とカリキュラムの関わり	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 九州歯会誌	6. 最初と最後の頁 75-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鬼塚千絵、永松浩、鯨吉夫、木尾哲朗	4. 巻 33(3)
2. 論文標題 九州歯科大学付属病院研修歯科医宿泊研修の実施内容と検証-平成20年度から平成27年度までの8年間のまとめ-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日歯教誌	6. 最初と最後の頁 206-213
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本龍生、木尾哲朗、尾崎哲則、櫻則章、角忠輝、平田創一郎、和田尚久、平田幸夫	4. 巻 32
2. 論文標題 全国歯科大学・歯学部における「2013年度版 よき歯科医師になるための20の質問 倫理的検討事例集」の利用状況	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日歯教誌	6. 最初と最後の頁 93-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鯨吉夫、木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵、吉野賢一、西原達次	4. 巻 70
2. 論文標題 歯学部新入生に対する宿泊研修プログラムへの取り組みと検証	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 九歯会誌	6. 最初と最後の頁 87-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒石加代子、木尾哲朗、郡司掛香織、芳賀智子、森田淳平、志賀百年、川元龍夫	4. 巻 12
2. 論文標題 九州地方における矯正歯科標榜歯科医療機関数と日本矯正歯科学会認定医数から見る医療アクセス	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 九矯歯誌	6. 最初と最後の頁 18~27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板家朗、鬼塚千絵、永松浩、木尾哲朗	4. 巻 8
2. 論文標題 短期間での歯科診療所退職の理由に関する質的分析	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日総歯誌	6. 最初と最後の頁 9-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計38件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 安永 愛, 永松 浩, 鬼塚 千絵, 木尾 哲朗
2. 発表標題 映像教材と臨床倫理4分割表による歯学部学生の歯科医療倫理に対する学びの変化
3. 学会等名 第12回日本総合歯科学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鬼塚千絵, 安永 愛, 永松 浩, 角野夢子, 木尾哲朗
2. 発表標題 研修歯科医を対象にした医療面接スキルアッププログラムの概要とその評価
3. 学会等名 第12回日本総合歯科学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤香恋, 永松浩, 鬼塚千絵, 板家朗, 木尾哲朗
2. 発表標題 研修歯科医が困難を乗り越える心理社会的プロセス
3. 学会等名 第11回日本ヘルスコミュニケーション学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鬼塚千絵, 福井満里菜, 永松浩, 安永愛, 伊藤香恋, 木尾哲朗
2. 発表標題 医療コミュニケーション教育の講義前後での「医療面接」に対する学生のイメージの変化について
3. 学会等名 第51回日本医学教育学会大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 粟野秀慈, 徳永隼平, 村岡宏祐, 守下昌輝, 貴船亮太, 木尾哲朗, 西原達次
2. 発表標題 デジタル歯科用シミュレーターを用いた臨床能力向上のための自主トレーニング環境の構築に向けた検証
3. 学会等名 第39回日本歯科医学教育学会総会および学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 瓜生和彦, 鬼塚千絵, 板家 朗, 永松 浩, 木尾哲朗
2. 発表標題 歯学科学生が臨床実習を経験することによる「良い歯科医師のイメージ」の変化.
3. 学会等名 第60回日本歯科医療管理学会総会・学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本貴文, 鬼塚千絵, 板家朗, 伊藤香恋, 瓜生和彦, 永松浩, 木尾哲朗
2. 発表標題 学生が考える「良い歯科医師」とは? - 臨床実習での変化 -
3. 学会等名 第37回日本歯科医学教育学会総会および学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柴戸あゆち, 鬼塚千絵, 中村由紀, 下坂桃子, 淵上祐子, 山口紫乃, 三田未咲, 松下智美, 福屋祐子, 永松 浩, 中道敦子, 引地尚子, 秋房住郎, 富永和宏, 寺下正道, 木尾哲朗
2. 発表標題 九州歯科大学歯学部口腔保健学科学生の歯科用語の認知度調査
3. 学会等名 第78回九州歯科学会総会学術大会
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 山口紫乃, 中村由紀, 下坂桃子, 澗上祐子, 柴戸あゆち, 三田未咲, 松下智美, 福屋祐子, 瀧地智那望, 小山詩織, 鬼塚千絵, 永松 浩, 木尾哲朗, 中道敦子, 秋房住郎, 引地尚子, 富永和宏, 寺下正道
2. 発表標題 九州歯科大学口腔保健学科学生の学修目標の変化(1~5期生)
3. 学会等名 第78回九州歯科学会総会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鬼塚千絵, 安永愛, 永松浩, 伊藤香恋, 曾我部浩一, 木尾哲朗
2. 発表標題 医療面接とは? - 歯学部二学科合同の医療コミュニケーション講義の紹介 -
3. 学会等名 第50回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Onizuka C, Konoo T, Kaiho Y, Sugimoto A
2. 発表標題 What is the competence to be required for dental students to graduate from a university in Japan?
3. 学会等名 ADEE (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤香恋, 鬼塚千絵, 永松浩, 木尾哲朗
2. 発表標題 歯学部学生の社会的スキルは医療コミュニケーション講義前後でどのように変化したか?
3. 学会等名 第10回ヘルスコミュニケーション学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安永愛、鬼塚千絵、伊藤香恋、板家朗、曾我部浩一、永松浩、木尾哲朗
2. 発表標題 ワークショップ「チームで目指す、安心・安全、そして信頼」の概要とそのアウトカムに関する考察
3. 学会等名 第78回九州歯科学会総会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安永愛、永松浩、鬼塚千絵、曾我部浩一、角野夢子、角田聡子、安細敏弘、木尾哲朗
2. 発表標題 九州歯科大学附属病院第1総合診療科における患者の実態調査 平成26年度から平成29年度
3. 学会等名 第11回日本総合歯科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安永愛、牟田悟朗、鬼塚千絵、永松浩、曾我部浩一、蓑原尚之、木尾哲朗
2. 発表標題 歯科医療機関でのコミュニケーションとクレームに関する考察
3. 学会等名 第20回九州歯科医療管理学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒石加代子、繁岡文、板家朗、藤井誠子、郡司掛香織、木尾哲朗、川本龍夫
2. 発表標題 自家移植後に矯正歯の移動を行った症例
3. 学会等名 第77回九州歯科学会総会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 永松浩、守下昌輝、中原孝洋、林政成、中島啓介、木尾哲朗
2. 発表標題 九州歯科大学付属病院における電子カルテ化の概要と要件-基本方針-
3. 学会等名 第77回九州歯科学会総会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鯨吉夫、木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵、吉野賢一、西原達次
2. 発表標題 九州歯科大学における宿泊研修プログラムへの取り組みと検証
3. 学会等名 第77回九州歯科学会総会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 黒石加代子、木尾哲朗、郡司掛香織、川元龍夫
2. 発表標題 北海道、東北、関東、中部地方における矯正歯科標榜歯科医療機関数と日本矯正歯科学会認定医数について
3. 学会等名 第77回九州歯科学会総会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 郡司掛香織、木尾哲朗、黒石加代子、川元龍夫
2. 発表標題 近畿、中国、四国、九州地方における矯正歯科標榜歯科医療機関数と日本矯正歯科学会認定医数について
3. 学会等名 第77回九州歯科学会総会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤香恋、鬼塚千絵、永松浩、木尾哲朗
2. 発表標題 理学療法学科および作業療法学科学生は歯科用語をどの程度認知しているか？
3. 学会等名 第36回歯科医学教育学会総会および学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 瓜生和彦、鬼塚千絵、伊藤香恋、永松浩、木尾哲朗
2. 発表標題 研修歯科医が考える協力型臨床研修施設を選択する基準
3. 学会等名 第36回歯科医学教育学会総会および学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平田創一郎、木尾哲朗、尾崎哲則、櫻則章、角忠輝、山本龍生、和田尚久、酒寄孝治、平田幸夫、俣木志朗
2. 発表標題 ワークショップ「倫理的検討事例を用いたプロフェッショナリズム教育の展開」報告
3. 学会等名 第36回歯科医学教育学会総会および学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 板家朗、鬼塚千絵、永松浩、今福輪太郎、木尾哲朗
2. 発表標題 診療の現状における研修歯科医の成長プロセス
3. 学会等名 第49回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鬼塚千絵、伊藤香恋、菊池滋夫、半谷真七子、中村由紀、永松浩、木尾哲朗
2. 発表標題 歯科関連用語は他の医療人に認知されているのか？
3. 学会等名 第49回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 板家朗、鬼塚千絵、今福輪太郎、永松浩、木尾哲朗
2. 発表標題 上級医との関わりが歯科医師の成長を促す-若手歯科医師の成長プロセスから-
3. 学会等名 第9回日本ヘルスコミュニケーション学会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 繁岡文、黒石加代子、板家朗、藤井誠子、郡司掛香織、木尾哲朗、川元龍夫
2. 発表標題 智歯の自家移植後に矯正的歯の慰労を行った1例
3. 学会等名 第76回日本矯正歯科学会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 梅原千草、鬼塚千絵、安永愛、永松浩、木尾哲朗
2. 発表標題 歯科治療に対し不安感を持つ外国人患者を担当して-後期研修医の自分にできること-
3. 学会等名 第10回日本総合歯科学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 角野夢子、鬼塚千絵、永松浩、木尾哲朗
2. 発表標題 高齢者の患者と良好な関係を築くまでのプロセス
3. 学会等名 第10回日本総合歯科学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 御手洗直之、鬼塚千絵、板家朗、伊藤香恋、永松浩、木尾哲朗
2. 発表標題 上顎中切歯欠損時の修復治療法選択に関する因子について-思考過程の検討-
3. 学会等名 第10回日本総合歯科学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 清田幸一、鬼塚千絵、板家朗、坂本貴文、佐々木崇良、瓜生和彦、木尾哲朗
2. 発表標題 登院実習前の学生が考える「良い歯科医師」とは？第1報
3. 学会等名 第10回日本総合歯科学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐々木崇良、鬼塚千絵、板家朗、清田幸一、坂本貴文、瓜生和彦、木尾哲朗
2. 発表標題 登院実習前の学生が考える「良い歯科医師」とは？第2報
3. 学会等名 第10回日本総合歯科学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坂本貴文、鬼塚千絵、板家朗、佐々木崇良、清田幸一、瓜生和彦、木尾哲朗
2. 発表標題 登院実習前の学生が考える「良い歯科医師」とは？第3報
3. 学会等名 第10回日本総合歯科学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 木尾哲朗
2. 発表標題 ファシリテータ養成セミナーにおける教育プロフェッションの育成
3. 学会等名 日本歯科医学教育学会大会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 木尾哲朗
2. 発表標題 他職種連携（IPW）を行うためのプロフェッショナリズムを考えよう
3. 学会等名 日本歯科衛生教育学会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 大住伴子、引地尚子、三阪美恵、角館直樹、木尾哲朗
2. 発表標題 医療コミュニケーションにおける歯学科および口腔保健学科学生に対する多職種連携教育の試み
3. 学会等名 日本歯科医学教育学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 黒石加代子、木尾哲朗、郡司掛香織、森田淳平、川元龍夫
2. 発表標題 歯科医療におけるプロフェッショナリズムを考える～日本矯正歯科学会認定医分布から見る矯正歯科医療へのアクセス～
3. 学会等名 日本歯科医学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 郡司掛香織、木尾哲朗、黒石加代子、森田淳平、川元龍夫
2. 発表標題 歯科医療におけるプロフェッショナリズムを考える～九州地方における日本矯正歯科学会認定医分布から見る矯正歯科医療へのアクセス～
3. 学会等名 日本歯科医学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 日本歯科医学教育学会 倫理・プロフェッショナリズム教育委員会（委員長：木尾哲朗）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 医歯薬出版株式会社	5. 総ページ数 77
3. 書名 よき歯科医療人になるための倫理・プロフェッショナリズム教育 プロフェッションワークブック	

1. 著者名 木尾哲朗、浅沼直樹、尾崎哲則、櫻 則章、角 忠輝、長谷由希子、平田創一郎、星野由美、山本龍生、和田尚久	4. 発行年 2018年
2. 出版社 M's クリエイト	5. 総ページ数 78
3. 書名 2018年度版 よき歯科医療人になるための20の質問 倫理的検討事例集	



1. 著者名 伊藤孝訓、小川哲次、木尾哲朗、長谷川篤司、鈴木一吉、吉田登志子、藤崎和彦	4. 発行年 2016年
2. 出版社 三恵社	5. 総ページ数 26
3. 書名 新しい医学教育の流れ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----